

科学館廃止の経緯に関する検証について

施設・設備の老朽化により廃止となった科学館について、区において廃止に係る経緯を検証しましたので、その結果をお知らせします。

1 科学館の概要

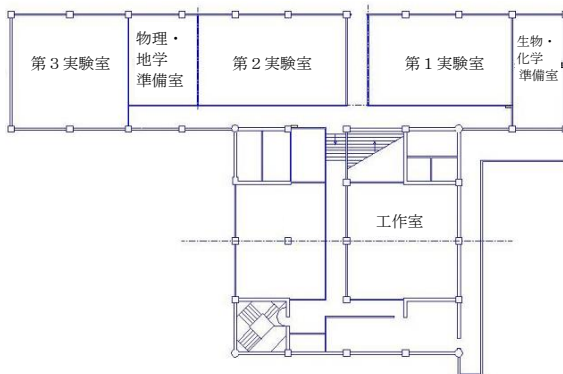
(1) 施設の概要

- ・所在地：杉並区清水3-3-13
- ・建築年度：昭和43年度
- ・敷地面積：3,508.11 m²
- ・延床面積：2,762.12 m²
- ・開設年月日：昭和44年4月1日
- ・廃止年月日：平成28年3月31日



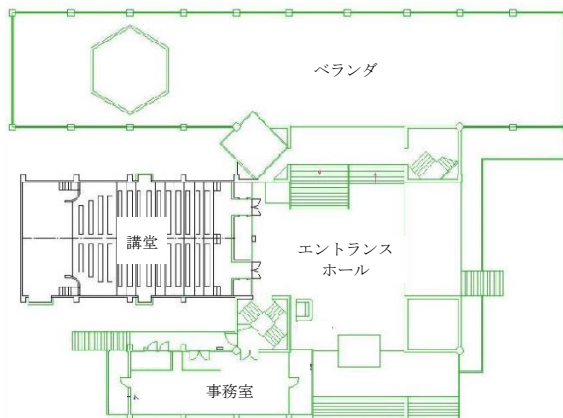
▲ 外観

・配置図：



地階

第1実験室、
第2実験室、
第3実験室
生物・化学準備室、
物理・地学準備室、
工作室

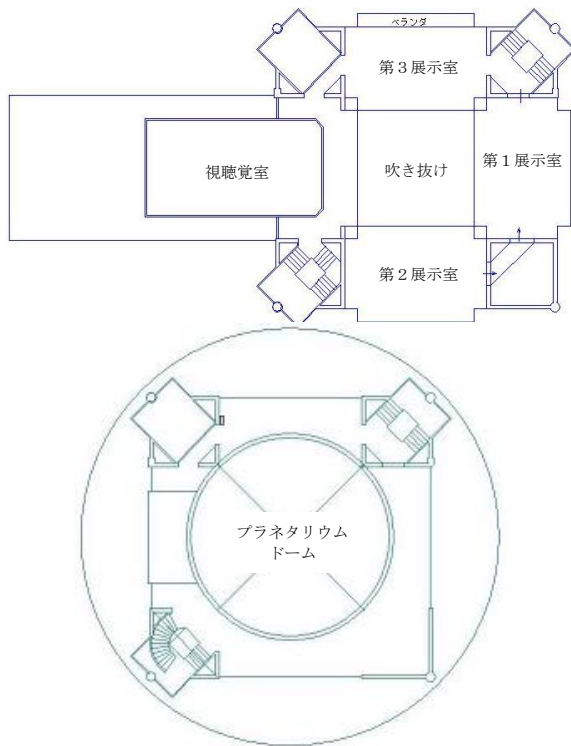


1階

エントランスホール、講堂、事務室



▲ 講堂



2 階

第1展示室、第2展示室、第3展示室
視聴覚室



▲ 第1展示室

3 階

プラネタリウムドーム、
天文準備室

(2) 事業の概要

学校教育分野	理科移動教室	小・中学校の理科授業(プラネタリウムを利用した授業を含む)を科学館で実施
	科学教室	小学5・6年生及び中学生の希望者を対象に実施
	科学創意工夫展	小中学生の作品や研究記録を展示・公開
	教員実技研修	教員へ理科学習の指導方法等について実技研修を実施
	科学教育調査研究	理科学習の指導方法等に関する調査・研究
生涯学習分野	サイエンス・ウィーク	夏休み等に科学ビデオの上映やプラネタリウム投映などを実施
	サイエンス・タイム	短時間でできる実験・観察等を実施
	区民科学教室	親子科学教室などの講座を実施
	区民科学講座	講師を招いてワークショップ等を実施
	天文のタベ	天体観測や講演会などを実施
	プラネタリウム投映	保育園や地域の団体のほか、個人を対象に定期的にプラネタリウムを投映

(平成 25 年度)

2 廃止に至る主な経緯

(1) 科学館の廃止に至るまでの経過

科学館の廃止に至るまでの主な経過は、以下のとおりです。

年 月	経 緯
平成 25 年 11 月	区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プラン（素案）に科学館廃止に関する計画を記載
〃	区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プラン（素案）に関する住民向け説明会を区内 5 か所で実施
平成 26 年 1 月	区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プラン（案）に関する住民向け説明会を区内 5 か所で実施
平成 26 年 3 月	区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プランを策定
平成 27 年 4 月	科学館機能のうち、学校教育分野は済美教育センターへ、生涯学習分野は社会教育センターに移転したうえで、新たな事業展開の検討を開始
平成 27 年 10 月	第 17 回教育委員会定例会で、科学館の廃止について決定
平成 27 年 12 月	第 4 回区議会定例会で、杉並区立科学館条例を廃止する条例を可決
平成 28 年 3 月	科学館閉館

(2) 科学館の廃止と科学館機能の移転

科学館は、科学教育センターという施設名称で、昭和 44 年に学校教育分野の校外施設として開設しました。以来、小・中学校では体験できないプラネタリウムや実験等、理科授業を補完する機能を果たしてきました。その後、平成 14 年には生涯学習分野の事業も併せて行うこととし、施設名称を科学館に変更しました。

築 37 年を過ぎた平成 18 年には、施設・設備の老朽化を背景とした新館建設を念頭に、杉並区立科学館基本構想策定懇談会が設置されました。科学館を生涯学習施設として、より活発に活用するため、科学館がどのようにあるべきか、そのあり方について検討を行うとともに、多くの区民が来場しやすい場所への移転改築についても検討されてきましたが、その後、具体的な移転先の確保には至りませんでした。

こうした中、学校教育分野では、平成 21 年度に、新学習指導要領の授業時数

増等へ対応するため、学校理科室の環境整備をはじめ、学校における実験授業の補助員として理科支援員の配置や、理科教育を専門とする職員が巡回指導を開始しました。

一方、生涯学習分野は、幅広い世代を対象とした科学事業の充実が求められていましたが、科学館の建物は、エレベーターやスロープの設置など、バリアフリー化された誰もが使いやすい施設に改修することが構造上難しい状況でした。また、展示室やプラネタリウムについては、質の高い新しいプログラムを安定的に提供するためには、一定期間ごとに展示や機器を更新する必要がありましたが、その度に多額の経費が必要となることから、リニューアルすることが難しかったため、結果的に科学館に対する魅力も低下していきました。

利用者数では、平成 14 年に生涯学習分野の事業が加わって以降も、学校教育分野の利用が全体の 7 割を占めており、その学校教育分野の利用においても、平成 22 年度から学校への出張授業が始まったことから、小・中学生については、科学館に来館する必要性は薄れていきました。また、学校教育分野以外の一般利用者数は年間で延べ 7 千人程度にとどまり、多くの区民が利用している施設とは言えない状況でした。

このような状況を受け、科学館が果たしてきたこれまでの機能を維持しながら、学校や身近な地域の施設を活用して事業を行うこととし、平成 25 年 11 月の区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プラン（素案）において、科学館を廃止することとしました。

これに伴う科学館の代替機能として、学校教育分野については、平成 26 年度から試行的に済美教育センターへ機能を移し、同センター内に理科準備室の設置と理科指導員を配置したうえで平成 27 年度から理科出前授業を本格実施しました。これにより、これまで科学館で実施してきた内容は維持しつつ、済美教育センターの理科指導員が学校へ出向き教員とともに授業をつくりあげることで、科学館が担ってきた学校支援機能の充実を図り、科学教育を推進することになりました。

また、生涯学習分野については、平成 26 年度に科学館に変わる新たな事業展開について検討を行った結果、平成 27 年度からは社会教育センターにその機能を移し、区民を対象とした科学教育事業を実施してきました。さらに、区内の科学団体とも連携して区内の身近な地域の施設で移動式プラネタリウムやワークショップなどの事業を実施し、科学の学びのすそ野を広げてきました。

これら学校教育分野及び生涯学習分野に関する事業については、現在も継続しているところです。

一方で、科学教育の充実に加え、広く区民の生涯学習の推進に寄与できるよう、民間活力の導入等により次世代型の事業展開を図ることを基本とした拠点等に

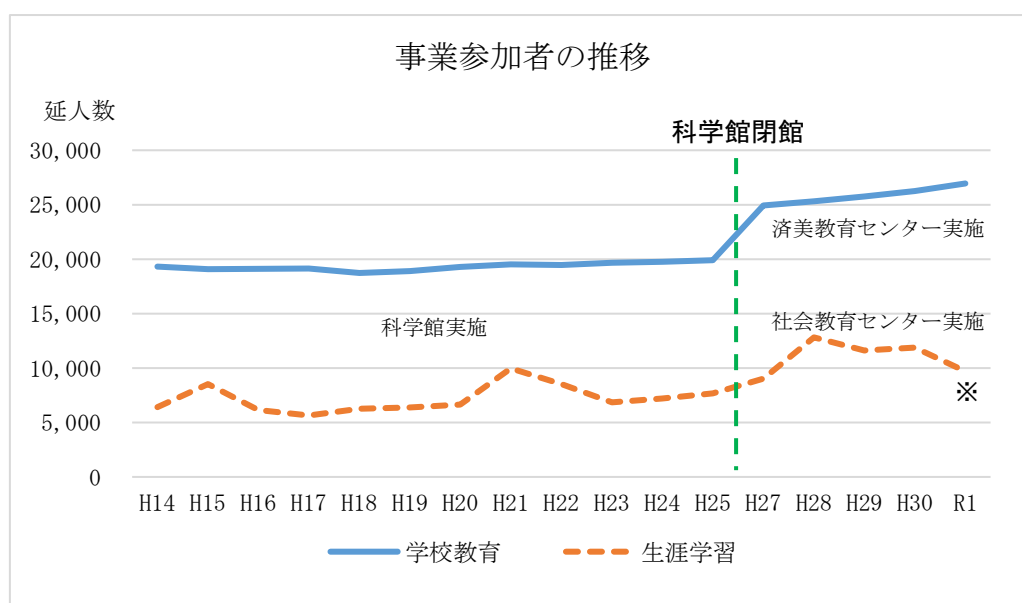
ついて多面的に検討を開始し、令和2年度には、旧杉並第四小学校跡地を活用した次世代型科学教育の新たな拠点の整備について基本計画を策定しました。この計画に基づき、区では、固定的な展示物を中心とした従来型の科学館が抱える課題を解決するため、サウンディング型市場調査[※]を実施し、民間活力導入の可能性を探り、その後、科学の拠点整備・運営事業者の公募を行った結果、複数の科学館運営の実績を持つ株式会社コングレが選定されました。さらに、改修工事等を経て、令和5年10月に科学体験施設「IMAGINUS（イマジナス）」を開設しました。

※サウンディング型市場調査：公有地の活用や民間サービスの導入などの取組における内容・公募条件等を決定する前段階で、当該案件の活用の可能性を最大限に高めるため、公募により民間事業者の意向調査や民間事業者との直接対話を行い、取組の内容・公募条件等に関する整理を行うものです。

(3) 区民への説明について

科学館の廃止に伴う区民への説明については、主に区立施設再編整備計画を策定する際の住民説明会のほか、小・中学校のPTA連合協議会や科学館関連団体に対して行ってきました。また、同計画の決定後も清査中通地区町会連合会をはじめ、近隣の町会や学校運営協議会等の関係者へも個別に説明を行いました。

(4) 事業参加者の推移



※令和元年度(R1)は、新型コロナウイルス感染症の影響によりサイエンスフェスタを中止したことによる減

3 検証のまとめ

(1) 科学館廃止に至るまでの区の進め方について

科学館は、学校教育分野における出張授業の開始を契機に、施設の老朽化や展示の陳腐化等の課題を理由に廃止するに至りましたが、児童をはじめ区民に親しまれてきた施設であることから、区立施設再編整備計画を策定する前の段階で、住民向け説明会や小・中学校関係者、近隣町会等へ説明を行うことで、廃止への理解と周知に努めてきました。

その後、教育委員会で科学館の廃止について審議したのち、杉並区立科学館条例を廃止する条例案が区議会定例会で審議され可決されたものです。

しかし、平成 25 年 11 月に計画を公表して以降、5 か月程度で計画が決定されたことについては、当該施設に愛着のある区民にとっては唐突で、受け入れがたいという印象を抱く方もおいでではなかったかと推察されます。こうしたことを踏まえると、もう少し時間をかけて丁寧に廃止に至る事情等を説明するとともに、今後の展開等について区民とともに考える場を設けることなどの対応が必要であったものと受け止めております。

一方、廃止に伴い、それまでの科学館が果たしてきた役割や機能については、新たな取組を加え継承と発展に取り組んできました。学校教育分野においては、済美教育センターを拠点として、理科指導員が各学校に出向き、実験授業や移動式プラネタリウムの出前授業を実施してきたことで、児童・生徒からの高い評価につながり、理科や科学に対する興味・関心を引き出しています。

生涯学習分野においては、社会教育センターを当面の拠点として、身近な地域の施設を活用した科学展示や天文学習会などの出前型事業の実施や、科学団体等と協働したサイエンスフェスタを開催しており、科学館の廃止前と比較しても、多くの区民が科学の学びに触れています。

また、今般、これまで以上に広く区民の生涯学習の推進に寄与できるよう、旧杉並第四小学校の跡地に常に新たな発見が得られる科学の拠点を開設しました。

これからは、身近な地域の施設を活用した出前型の事業と、日々進展する科学に触れ、いつ来ても新たな発見が得られる科学体験施設「IMAGINUS (イマジナス)」で実施する事業を運営事業者が一体的に進めていくことで、廃止した科学館を超える豊かな学びを提供できるものと考えています。

(2) 科学館廃止後の跡地活用について

区では、高齢化の急速な進展に伴い、今後一層、要介護高齢者が増加することが予想される中、介護が必要になっても住み慣れた地域で引き続き安心して生

活ができるよう、特別養護老人ホーム等の整備を着実に進めていく必要があります。しかし、住宅都市である杉並区にとっては、整備を進めるための大規模用地の確保が課題となっていました。

科学館の廃止に伴い、3,500 m²を超える大規模な用地が生み出されたことから、平成31年3月には、小規模多機能型居宅介護事業所を併設した特別養護老人ホームを開設することができました（定員60人、令和5年3月末現在、満床。このほか併設ショートステイ10人）。これにより、杉並区総合計画に掲げた「10年で特別養護老人ホーム1,000床増床」の目標達成に資することができ、区民福祉の向上につながっています。

科学の拠点（IMAGINUS）の整備について

① 科学の拠点の概要



- 3階：ワークショップルーム、科学団体活動室、企画展示室、ショップ・自由工作室、カフェ
- 2階：常設展、実験工作室、モノづくり工房、映像スタジオ、集会室
- 1階：体育館、多目的室、集会室

令和5年10月に、旧杉並第四小学校の跡地に科学の拠点が開設しました。固定的な展示物の見学を中心とした従来型の科学館とは異なり、企画内容を随時更新することで、日々進展する科学に触れ、いつ来ても新たな発見が得られる参加型・体験型の場とするとともに、身近な地域の施設へ出向いて行う科学教育事業の拠点としていきます。

② 科学の拠点の検討から開設までの区の取組について

- 科学館廃止に伴い、生涯学習分野については、次世代型の事業展開を図ることを基本とした拠点等について検討することとしました。
- 出前型事業の一層の充実と、世代を超えて最先端の科学に親しむことができる拠点づくりに向けて、平成27年度に「次世代型科学教育の拠点づくりに関する調査・研究」を実施し、その結果を踏まえ、科学の拠点のあり方や必要な機能、整備する場所について検討を進めてきました。
- 自治体が所有する展示物を使った事業展開では、これまで科学館が直面してきた展示の陳腐化などの課題を解決することは難しく、また、科学分野における幅広い専門性に対応していくためには、多様な人材の参画が必要です。さらに、常に新しい発見や学びが得られる展示や、スタッフの専門性を確保するためには、科学団体や民間企業等との連携が不可欠です。このため、令和元年度に民間活力導入の可能性を探るためサウンディング型市場調査を実施しました。その結果、参加事業者から多くの活用アイデアを確認することができました。また、事業方式を定期借家契約にすることで、こうしたアイデアを運営に生かしやすい、採算性の確保も可能であることが確認できました。
- 令和元年度に、これまでの調査や検討結果を踏まえて、科学の拠点を含む杉並第四小学校の跡地活用について基本計画を策定しました。整備する主な施設は、以下のとおりです。

施設・機能	主なエリア	整備主体	運営・維持管理主体
科学の拠点	建物2階・3階 学習活動園	科学の拠点 運営事業者	科学の拠点 運営事業者

多目的に利用できる場 (集会機能)	建物北側1階 体育館	区	科学の拠点 運営事業者
区立高円寺北子供園	建物南側1階、園庭、 学習活動園内の畑	区	区

- 令和元年度から令和2年度にかけて、選定委員会を設置し、科学の拠点運営事業者候補者の公募を行いました。その結果、横浜こども科学館や千葉市科学館など、複数の科学館運営の実績をもつ株式会社コングレが選定されました。
- 令和2年度から令和5年9月まで、実施設計及び改修工事を実施しました。建物の長寿命化改修と集会機能の整備は区が行い、科学の拠点の内装改修は運営事業者が行いました。その後、地域住民の方々をお招きした事前内覧会等を経て、10月7日にグランドオープンを迎えました。
- この間、科学の拠点の整備に当たっては、区立施設再編整備計画を策定する際の住民説明会のほか、高円寺地域の町会や科学関係団体等へ説明を行いながら進めてきました。また、改修工事の着手に当たっては、区と運営事業者が合同で説明会を開催しました。現在は、地元町会をはじめ、高円寺の地域住民で構成される地域協議会への参加や科学関係団体等で構成されるサイエンスフェスタ実行委員会との連携など、地域の方々との関係を構築しながら進めています。引き続き、本施設が、区民に親しまれ、科学館に代わる新たな学びが得られる施設となるよう、地域住民の方々の声に耳を傾けながら、区と運営事業者が連携して進めていきます。